

千葉がんシンポジウム 2011 が開催されました

近年、食事の欧米化や前立腺癌特異抗原 (PSA) の検診により前立腺がんの罹患率が非常に増加しております。当科でも平成 17 年度前立腺全摘除術が 84 例、前立腺生検 228 例でしたが、平成 22 年度前立腺全摘除術が 150 例、平成 22 年度では前立腺生検が 505 件と急増しております。そのようななか、病院局長小田先生、中川原センター長のご尽力で前立腺センターを平成 23 年 4 月から開設していただきました。前立腺センターは泌尿器科、放射線治療部、画像診断部、臨床病理部で構成されています。県民の皆様の前立腺がん治療に関して、質の高い最新の医療をご提供いたしたいと存じます。

さて、前立腺センターの開設記念ということで平成 23 年 8 月 6 日千葉市の三井ガーデンホテルにて「前立腺がん治療の最新戦略」をテーマに千葉がんシンポジウム 2011 を開催いたしました。講演会は、センター長中川原先生の開会挨拶から始まり、千葉県医師会会長藤森先生、千葉県病院局局長小田先生からお祝辞をいただきました。前立腺がんの基礎研究から治療において国内の第一線で活躍される先生方をお呼びいたしました。

はじめに、群馬大学教授 鈴木和浩先生に前立腺がんの最近の基礎的研究としてご講演いただきました。内容は、去勢抵抗性前立腺がんの状態におけるアンドロゲン受容体を介したシグナル伝達の解析、アンドロゲン受容体に依存しない細胞 増殖のメカニズム、アポトーシス抑制タンパクファミリー機能解析、脂質と前立腺がんの関係についてご講演いただきました。

次に、前立腺がんの放射線治療として、当センター放射線治療部 幡野和男先生、重粒子医科学センター病院 辻比呂志先生にお願いいたしました。

幡野先生は当センターでの放射線治療法として強度変調放射線治療 (IMRT) を中心にご講演なさいました。当センターの IMRT はわが国の中でも早期に臨床応用が開始されており、2011 年 5 月時点で 600 例を超えており、晩期有害事象が少なく、手術に匹敵する治療成績であるとご発表なさいました。

辻先生は、平成 7 年から前立腺がんにも重粒子線治療の臨床試験を開始されたこと、現在までの照射回数の変遷、治療効果、有害事象などをご発表いただきました。

特別講演として、東京医科大学泌尿器科 橘 政昭先生にロボット支援手術についてご講演をお願いいたしました。近年の泌尿器科領域では低侵襲治療の進歩も目覚ましいものがございます。手術ではロボット支援手術も実用化されて、本邦では 25 を超える施設で導入され、手術が行われてきております。ロボット支援手術は、当センターでも 26 番目に導入されており、9 月の実施に向けて準備中ですが橘先生の「本邦における泌尿器科ロボット支援手術の現状と将

来展望」というご講演をいただき、初期導入の困難さ、手術手技の素晴らしさ、多症例の経験など今後の治療開始に向けて大変参考になりました。

また、東邦大学佐倉病院 鈴木啓悦先生には去勢抵抗性前立腺がんに対する最近の治療法についてご講演いただきました。去勢抵抗性前立腺がんは難治性で泌尿器科医師が治療に難渋する疾患ですが、薬物療法に選択肢が増えてきていること、また、抗男性ホルモン剤の交代療法、ステロイド治療、抗がん剤治療などの使用について個別化、適切なマネージメントを行うことによって、比較的長期に QOL を保持した生活が可能になってきていることをご講演いただきました。

イブニングセミナーは東京大学先端科学技術研究センター 赤座英之先生にお願いいたしました。話題は去勢抵抗性前立腺がんに対する新薬の開発状況や治験の進捗状況や、2001年に J-CaP Study Group を立ち上げられたことです。これは日本における前立腺がん患者の内分泌療法の実態を明らかにするためのデータベース研究であり、すべてがインターネット上で行われ、24,000 症例を超える患者の登録がなされたとのことでした。これらの治療データから多くの知見が得られていることをご紹介いただきました。

当日は、80 名以上の医師、コメディカルのご参加をいただき、活発な討議も行われ盛況な会となりました。参加された先生から、このシンポジウムの内容がまとまっており前立腺がんの最近の知見と治療に対する理解が深められたと多数のご感想をいただきました。

最後になりましたが、ご講演を賜りました先生方、ご参加いただいた医療関係者の方々、本会のサポートをいただきました病院局の皆様、運営をお手伝いいただきましたセンター事務局の方々には大変お世話になりました。改めて御礼申し上げます。

文責：千葉県がんセンター 前立腺センター・泌尿器科 部長 植田 健